

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200266		
法人名	グループホーム キノシタ (有)		
事業所名	グループホーム すいせん		
所在地	三重県三重郡川越町大字高松203-2		
自己評価作成日	平成 22年 10月 20日	評価結果市町提出日	平成23年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200266&SCD=320U
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22年 11月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前、午後のおやつの中には利用者とスタッフが一緒にお茶や会話を交わしながら同じ時間を過ごしています。また家庭的な環境作りとして、利用者には個々の出来る範囲で掃除、洗濯、特に今年は料理に力を入れ、毎食の料理として野菜を切ったり、味付けをしたり、炒め物をしたり沢山の利用者に参加していただきました。また外へ出る事も増え、例えば玄関前であっても外の空気に触れ、花の匂いや気温を体感し、通りすがりの小学生やご近所の方々と挨拶を交わし、地域との関わりを増やしてきました。夏休みには連日小学生が遊びに来たり、夏祭りでは利用者とスタッフが一緒になって料理を作り、食べたり飲んだり楽しい時間を皆で笑顔で過ごす事ができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアの実践者研修の講師でもあるグループ内2事業所の管理者兼介護支援専門員、利用者並びにスタッフに全幅の信頼がある施設長とリーダーの下、家庭的な雰囲気の中でその人らしく自立し生きがいを持って暮らし続けられるよう支援をしている。事業所内は和やかな雰囲気でありスタッフの笑顔と優しい会話で一人ひとりのニーズに合った快護(介護)が実践されている。利用者は活気があり表情も穏やかである。又、医療面ではスタッフに24時間対応可能な看護師が配置され、医療機関との密接な連携のもと利用者の健康管理に配慮し、生き生きと安心して暮らしている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつも目に届くように事務所に掲げられている。介護されるほうもするほうも心地よい気持ちになるような介護(快護)を目指し地域に貢献するように実施している。	理念は施設長、スタッフともよく理解されて共有されている。日々の生活ではスタッフの笑顔と優しい会話のなか、自立(何事も自分で出来るまで我慢強く見守る等)により、地域の中でその人らしく生きがいを持って暮らし続けられる支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会運動会等に参加したり、買い物や美容院へ外出したりし、地域との関わりを続けられるように支援している。	地域との付き合いを最も重視されており、散歩時の挨拶はもちろん、地域の行事(盆踊り、餅つき大会、等)に参加、事業所の夏祭りに家族と共に地域の方を招待している。又、防災(避難)訓練に地域の方や民生委員、地元の中学生在が参加する等積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新しく入居申し込みにみえた家族さんに「認知症」について細かく説明したり、アドバイスをしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催する運営推進会議では会議委員も含め避難訓練など万が一に備えた取り組みも実施している。	自治会長、市職員、地域包括支援センター、民生児童委員、家族代表等の参加で隔月に開催され、会議では活発な意見や助言が交わされ有意義な会議となっている。特に自治会の協力で事業所周辺の用排水路の整備が出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、窓口へ相談へ行ったり、電話連絡など密に取り協力関係を築いて頂けるようにしている。	生活保護者が多数利用されており、主に地域包括支援センターを窓口として常に報告や相談事等連携している。又、市主催の管内事業所会議には欠かさず参加のうえ意見交換し、互いの信頼関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や朝礼時(申し送り)で「拘束」について話し合っている。玄関は毎日、日中施錠しないようにしている。	施設長、スタッフとも身体拘束による弊害はよく理解され、玄関等は鍵はかけていないし身体拘束はしていない。又、言葉かけや精神面においても常に気遣いされ拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく全体会議や申し送りにて確認し、虐待防止に努め、機会があれば研修や勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護利用者4名、成年後見人制度を2名が利用。職員一同が制度の把握、担当者との意見交換など制度を理解活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約説明書及び重要事項説明書に沿って詳しく時間をかけて説明し納得できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの要望や意見は朝礼・ミーティングやその都度話し合い職員全員で問題の改善に努めている。	利用者には何時でも、家族には面会時に、面会が少ない家族には電話で気軽に話せる雰囲気づくりに心がけ、出された意見は施設長とスタッフ皆で話し合い、出来ることから運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月数回の会議などで出た意見や要望を代表者や管理者へ提案し、話しやすく意見交換しやすい環境を心がけている。	リーダーは常にスタッフとのコミュニケーションを大切にし、ケアの現場や全体ミーティング、ユニット会議等でスタッフの気づきやアイデアを聞き入れ、施設長も参加し皆で話し合いのうえケアの向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月数回ある会議や運営推進会議に参加し、職員や地域の方々と意見交換したりし、職員個々に合わせて働きやすいように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会や研修会など職員のレベル向上のため参加を勧めたり、他グループホーム(一志)への勉強会を行い多数のスタッフが参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「認知症」に関わる他業種、同業種で作るネットワーク作り(四日市社協主催)の勉強会に出席し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と職員が数多く面識を持ち、特徴、性格等把握し、本人にとって必要な介護や要望などを慌てず、細かく把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人さんの思いや家族さんの思いをしっかりと聞き取り、安心して入居していただければ、お互いに協力し合っていくことが必要ですと話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族さんが必要としている支援を聞き、施設での支援内容や他施設、病院等のサービス内容なども説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々のできる事に応じ、職員と一緒に炊事、洗濯、買い物、掃除など生活活動を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも訪問できるような環境づくりに努め、近況報告をしながら家族さんの希望を聞き、本人、家族さんへの支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き着けの美容院や馴染みのスーパーへ買い物(お菓子、衣類等)、地区の催事への参加など行っている。	一人ひとりの意向や希望に沿い、住み慣れた場所での催事やおなじみの美容院への外出、昔の仕事の仲間や教え子、友人等多くの方に自由で気軽に面会して頂けるように心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活活動(炊事、洗濯、掃除等)を通し、入居者さんが孤立しないよう席、ソファの位置を考慮し関わり場の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先や入院先に面会に行き、様子を確認している。また担当の方と電話連絡などで様子を聞き相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員で新しい発見、気づきがあった場合は会議や申し送り、連絡ノートを活用し意見交換などを行い、思いや意向の把握に努めている。	利用者とかかわる時間を多く持つように心がけ、スタッフと一対一になる入浴時や散歩時等のさり気ない会話と、その日の体調や表情、行動から、又、時々スタッフからの誘導(提案)による反応から思いや意向を把握するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族さんからのアセスメントで情報収集に努め、入居後も更に情報収集に努め意見交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や申し送り、バイタル表を主に毎日変化する入居者の容態を職員全員が把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見を聞き、ユニット会議(毎月実施)で話し合い、介護計画を作成している。またモニタリングも毎月行っている。	スタッフ(看護師含む)は利用者毎に日々の気づきをメモ(記録)し、月1回ユニット会議で話し合いモニタリングをし、本人と家族の希望を聞き3ヶ月毎に見直し介護計画を作成している。大きな変化があればその都度作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の問題点を日々の観察記録や朝礼時に話し合い、毎月実施するユニット会議で介護計画の更新を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ支援方法など職員や家族、役場福祉課、社会福祉協議会、北勢福祉事務所などと相談し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し町や自治会主催の催し会などに参加したりボランティアによるレクリエーションを施設にて開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医を継続される方は今まで通りにしているが月2回提携医院の往診もある。夜間緊急時にも対応して頂いている。	本人と家族の希望するかかりつけ医で受診できる。協力医療機関で月2回の往診が実施され緊急時や夜間の対応も可能である。スタッフに24時間対応が可能な看護師が配置され、日々の健康チェックと医療機関との連携により適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師と介護職の連携を図り、適切な医療指示を現場に落としている。24時間連携が取れ介護職員からの信頼も厚い。また家族への連絡も細かくしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には管理者や看護師、職員が様子を見に行き入院先の医師、看護師、ソーシャルワーカーなどと情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期の在り方」「重度化した場合における対応の係る指針」として書類を作成し、かかりつけ医や施設の主治医・看護師・介護職員などと連携しミーティングをしている。	家族には利用契約の時に重度化や終末期のことについて希望を聞き、その後心身の状態を見て家族との話し合いを繰り返しながら、協力医の指導と家族の協力の下、事業所としては出来る限り支援する方針である。スタッフもよく理解し共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は看護師に連絡し看護師や医師から指示を受けられるように24時間体制での連携を取っている。また看護師の勤務時に応急手当(吸痰)の方法を新人職員に適宜指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での避難訓練では運営推進委員、他地区民生委員、消防署、中学生、近隣住民など地域での協力体制で訓練を行った。	消防署の指導の下、夜間の想定も含め年2回の避難訓練をし災害対策に備えているが、さらに全ての利用者が安全に避難出来るように、近隣や地域住民の方々の協力を得た避難訓練を定期的実施するように計画されたい。	非常時に備え、利用者が昼夜を問わず安全に避難出来るように、現状の年2回の避難訓練に止まらず、近隣や地域住民の協力(参加)を得た避難訓練を定期的に実施されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては誓約書を書き全職員に守秘義務を徹底している。また一人一人の尊厳を大事にするように会議や朝礼で注意し心がけている。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを傷つけないように、スタッフ同士の会話や利用者個別の話題(お金や噂話等)は皆の前では控える等、さり気なく笑顔での優しい言葉かけと話し方に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように話をよく傾聴するように職員全員で心掛けて、できるだけ希望に沿うようにし連絡ノートにて情報を共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の過ごし方は入居者が決める姿勢を取っており職員が意思確認している。自己決定できない入居者に対しては個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理容で対応している。また洋服などおしゃれに関心を持ってもらえるよう買い物へ行ったり、外の美容院を活用したりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者・職員ともに楽しく食事ができるように一緒に準備や食事作りをするよう心がけている。また嚥下困難な方や糖尿病の方などにもおいしく食べていただける様に工夫している。	調査当日の昼食もユニット毎に多くの利用者が参加され職員と一緒に、包丁で白菜を切ったり、ジャガイモの皮むき等調理の準備が行われている。食事は職員も同じテーブルで「今日のお味いかが・・・」など四方山話をしながら楽しい雰囲気の中で行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容の記録、食事量の記録、水分摂取の把握をして一人一人に声かけしながら支援している。またそれにより脱水、便秘、下痢に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔ケアを行っており、入居者個々に合わせて口腔ケア用品を購入し活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々に合わせて可能な限りトイレにて排泄していただくように支援している。	可能な限りトイレでの自立排泄が目標であり、日々寄り添うケアに心がけ、その日の体調や表情から排泄のサインを察知し、さり気なく耳元で囁きトイレに誘導し、自立による排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録から便秘の方は個別に排便コントロールを行い、場合によっては薬(下剤)を使用し体調管理に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は可能な限り本人の希望に沿うように努めている。また入浴できない方は清拭や足浴にて対応している。	希望があれば毎日の入浴が可能であり、時間も利用者の希望に合わせ午前10時から午後4時としている。入浴を強く拒否される場合は無理じいするのではなくに清拭や足浴で対応している。最近夜間入浴希望の声が出ているので検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思決定を重視しているが、夜間睡眠できるように日中は「生活活動」を行ったり、運動やレクリエーションに参加していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は看護師より指導を受けている。また服薬がきちんとできているか最後まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には全員でお祝いし、その方の楽しみや好みに応じ料理を作ったり、ケーキを作ったりして全員で楽しんでいる。またお世話が好きな方は隣にお世話してほしい方に座っていただいたりいろいろ工夫しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物に出かけたり、玄関先に出たり、施設周辺の散歩や小学生との交流など日々楽しんでいる。また施設駐車場で食事やお茶などをし、近所の方との交流など楽しんでいる。	天気がよければ毎日事業所周辺の散歩、玄関先のベンチで日向ぼっこをしながら隣接の小学校の生徒とお喋り、又、家族の協力を得ながら少し遠出の買い物、美容院、外食、住み慣れた我が家周辺への外出等多彩な支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活保護者が半数を占め、お金はデリケートな問題として個別に取り扱っている。入居者の希望に応じ職員と一緒に買い物へ出掛ける時は、自分でお金を払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようにしている。また手紙を書かれる方は職員とともに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み心地の良い建物であると思う。季節の花を購入したり、観葉植物を増やしたりし、不快な環境にならないように努めている。	居間兼食堂は広く、吹き抜けの高い天井には天窓があり心地よい明るさである。居間と対面式でつくられたキッチンは見守りしながら利用者と一緒に食事の準備ができ、調理時のいい香りが漂い食欲を誘う。又、各所に利用者のちぎり絵等の作品が飾られ家庭的でぬくもりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内で「食事の場」とソファを活用し「憩いの場」を別々に提供し、過ごしやすい環境に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた物や好みの物を置いて心地よく過ごしていると思う。また家族さんが見えてもゆったりと過ごせる広さだと思います。	各居室とも掃除がいきどき清潔できれいである。使い慣れた家具や家電、小物が持ち込まれ壁にはお気に入りの写真や飾り付けがされ、又、夜間用にポータブルトイレを置く等居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで随所に手すりがあり、歩行器にて歩行リハビリを行ったり、生活活動しやすい環境になっています。		